



近年、医学研究の発展により、遺伝子やたんぱく質などを解析することで、個人が持つ特定の病気にかかる可能性や治療薬の効果、副作用発生リスクなどを事前に把握し、個人に合った治療を選択する「個別化医療」への取り組みが始まっています。その「個別化医療」のために治療薬とともに用いられる検査薬が「コンパニオン診断薬」です。

「コンパニオン診断薬」を用いることで、患者さんに対する治療薬の有効性や副作用のリスクを絞り込むことなどが可能になるだけでなく、より効率的に新薬を開発することも可能になります。「個別化医療」の推進は、治療薬の奏効率を向上させるだけでなく、無駄な投薬を減らしたり、副作用を回避または軽減したりすることができるため、医療費の削減にも期待が寄せられています。

